商店街をどうしようてんがい

～「円頓寺七夕まつり」編～

人文社会学部　現代社会学科　安井　佑

7 月 30 日～8 月 3 日にかけて、西区の円頓寺商店街で七夕まつりが開催された。以前も紹介したとおり、我々もまつりの「主役」である張りぼてを 2 体制作し参加した。汗と涙の結晶である「ゴン太くん」が、ついに晴れの舞台に立ったのだ。

「七夕まつり」の期間中、円頓寺商店街は往年の賑わいを取り戻す。近年はシャッターを下ろしたままの店も多くなり、昼間でも閑散としている円頓寺であるが、まつりとなると話は別だ。約 600m にわたって続くアーケードからは、巨大な張りぼてや吹流しが飾られ、見るものを圧倒する。また、いったいどこから来たのだろうと思わせるほど多くの人が見学にやってくる。私もカメラを片手に、人の波をかきわけて「ゴン太くん」に会いに行ってきた。

「ゴン太くん」は、商店街の方々が作った張りぼてと共に見物客の注目を浴びていた。制作者の 1 人である私が見ても、非常にかわいらしく良くできていると思う。(単なる親ばかなのかもしれないが) 他の作品も見てまわったのだが、さすがに張りぼてを「売り」にしているだけあって、素晴らしい作品が数多く飾られていた。なかには、電動で動く「仕掛け」をほどこした力作も登場した。長年にわたって張りぼてを作り続ける「職人の技」を随所に感じ取ることができた。

同時に、商店街関係者や一般の人々の投票による「七夕まつり装飾コンクール」も行われ、多くの票を集めた作品には「愛知県知事賞」をはじめ数々の賞が贈られた。我々も「一般参加の部」で準優勝となる「円頓寺商店街理事長賞」を頂いた。惜しくも優勝は逃してしまったが、大勢の人から高い評価を得たことは大変嬉しく思う。

こうして、今年も「七夕まつり」は幕を閉じたわけであるが、商店街と地域の人々が一体となって生み出す「エネルギー」には、改めて驚かされた。いつも以上に生き生きとしていた商店街の人たちを見て、これからも円頓寺の真夏の祭典として、「七夕まつり」を続けてほしいと思った。また、こうした偉大な「エネルギー」を商店街の活性化にも生かすことができれば、低迷する現状を打破することも十分可能であるはずだ。

最後に、お世話になった商店街の方の言葉を紹介する。

「『七夕まつり』の、この独特の雰囲気は円頓寺でしか味わえないからね。大須や一宮ともまた違うしね。そういった意味でも、一年でも長く続けていかないとね。」